



新型コロナから命を守る県政に 11月議会 一般質問

節木三千代県議は、12月9日、①新型コロナウイルス感染症に対する「社会的検査」、②社会福祉法人の理事長による性暴力・セクシャルハラスメントについて、③ひとり親家庭への支援、④子ども食堂への支援を求めて、三日月大造知事に迫りました。

第3波 つよい危機感をもって対処を 医療機関・高齢者施設へのPCR検査を

クラスター発生 病院3カ所、介護事業所3カ所



12月4日、新年度予算緊急重点政策要望をする党県議団

第2波以降新型コロナウイルス感染症のクラスター（集団感染）が県内で12施設発生。そのうち病院で3カ所、介護事業所で3カ所にもなっています。ふしき県議は、「重症化を抑えるには、医療機関や高齢者施設での集団感染を防ぐことだ」とし、三日月知事に対して、無症状の感染者を見つけるために同施設の定期的なPCR検査、「社会的検査」を実施せよと強く求めましたが、知事は「一律に検査するのではなく」とし、否定的な姿勢です。11月19日付の厚生労働省の「事務連絡」では、「冬の到来をまえにして、7、8月の感染拡大の際に近い伸び方になっており、強い危機感をもって対処していく必要があります」とし、高齢者施設等の入所者または介護従事者等で発熱等の症状を呈

する者について「入所者及び従事者の全員に対して原則として検査を実施すること」としています。しかし、滋賀県ではクラスターが発生している病院において、陽性患者との関連が判明した病棟の関係者のみに限定。ふしき県議は「つよい危機感をもって、病院の入院患者や医療従事者全員の検査を原則どおり行う」よう求めました。

ひとり親家庭への支援を 子ども食堂への財政支援を

「知事！良心に頼っての運営です。年間5万円、136カ所の子ども食堂に支援したとしても年間680万円です。ぜひ継続のための支援を！」 (ふしき県議)

県母子福祉のぞみ会のアンケート調査でも母子家庭の6割が貯金ゼロ、50万円以下を含めると7割にも。ふしき県議は「コロナ禍で、パートの仕事も減り暮らしはいつそうたいへん。県として直接支援すべき」と求めました。

また滋賀県は2019年度に子ども食堂への補助金を廃止しています。ふしき県議は子ども食堂に取り組む方々が、感染対策や食材の調達に苦慮されている状況を紹介。県が継続のために財政支援をするよう求めました。

夏休み、朝ご飯食べにおいでと声をかけたいけれど、みんながボランティアで、一か月に一回開催にてんてこまい。野菜はもらえても、肉・魚は買わないといけなし。フードバンクだけで、調達できないし。補助金もいきなりなくなり、ほんとに困っている子どもがいるのに。支援してほしい。(支援を求める声)

社会福祉法人理事長の性暴力・セクシャルハラスメントは重大な人権侵害！ 知事「県としての調査を検討したい」

私は、県立福祉施設の指定管理者となっている社会福祉法人の理事長による性暴力・セクシャルハラスメントについて質問。「事実であれば重大な問題。全国で性暴力の被害にあった女性が声をあげ、フラワーデモが広がる。

#Me Too運動が広がり、性暴力は尊厳を傷つけるものとして社会が受け止めるようになりました。被害者が勇気をもって声をあげられた。受け止めていただきたい。事業を受ける資格があるのかどうか。当該法人に聞いて、事実を確認していただきたい」と知事に迫りました。知事は「必要だと判断すれば、県としての調査を検討したい」と答えました。この問題をうやむやにせず、県が毅然とした対応されるようにつよく求めます。(ふしき)

生活相談会をおこなっています。 毎月 第1.3月曜日 午後3～5時まで 場所：ふしきみちよ事務所 無料・秘密厳守

2020年12月15日 発行：ふしきみちよ事務所 大津市末広町4の4 Tel・Fax 077-523-0334 メール mfushiki@beach.ocn.ne.jp ふしきみちよ公式ホームページ <http://fusiki.huu.cc/>

ふしき みちよ 検索